

○ 11月14日(木)

小中学校スクールミーティング(亀岡市立東輝中学校)



○ 冷泉 委員

生徒会歌『「僕ら」へ』の全校生徒の大合唱で迎えられました。自分たちで作詞作曲した歌を、皆で歌う喜びに満ちあふれていました。先生方のご指導も、さぞ大変だったろうと思います。

いくつかの授業も参観しました。印象に残ったのは、合唱をしていた音楽の授業とカルタをしていた英語の授業でした。英語のカルタの授業は工夫されていて、生徒が自然に英語を聞くことに慣れる様子が分かるようでした。

クラブ活動も大変活発で、効率よく練習に励み、とてもいきいきとした姿でした。吹奏楽部に楽器が不足しているようで、何とかなればと思います。

○ 11月14日(木)

小中学校スクールミーティング(亀岡市立東輝中学校)



○ 安藤 委員

「先輩たちが築き上げてきたことを大切にし、新しい伝統を作り、つなげる」という気風の、元気でいきいきとした学校を拝見させていただきました。

職員玄関先の色とりどりの花を見ながら校舎内へ足を運ぶと、そこには「部活動の活躍」、「生徒会のスローガン」、「文化祭や体育祭のパネル」など学級や学年が結束を深めた証や、目標としてきた言葉のひとつひとつが至る所に掲示されており、生徒が輝く姿を一目で知ることができました。また、他の学校にはない「生徒会歌」を全校生徒で披露してくれるなど、その歌の成り立ちや大人なら誰でも経験したことのあるフレーズは共感できるものがあり、想像以上に心に響いてきました。柔らかなメロディの中に彼らが感じる希望や葛藤、友情や仲間への想いなど、毎日を一生懸命に過ごしている充実感が感じられました。体育館中に響き渡る迫力ある歌声は、学年を進めるごとにより充実した響きとなり、日々の学校生活の中で進化していくことと思います。生徒会を中心に様々な特色ある取組や奉仕活動など学校の内外で、主体的に活動する生徒の姿がとても新鮮に見えました。

学校生活を送る中で、子供たちは日々、迷い、つまずき、時には反発や葛藤を繰り返しながら成長していきます。長いスパンでの展望を持ちながらも、常に目の前の生徒に目を向け全力で関わる、スピーディーに動く、そんな教職員体制とチームワークが子どもたちを輝かせる一助となっているのではと感じました。生徒の主体性(自主性)を尊重し「自分たちにできること」を見守り、時には背中を押し地域での活動につなげる、そのような指導の下、今では保護者や地域との信頼関係もしっかりと築かれていることが伺えました。こうした取り組みは学校の活性化には必要不可欠なものではないかと考えています。

今後も教員の個性や持ち味などを活かし、常に新しく「きらりと光る取組」を地域に発信し、いきいきとした学校づくりをしていって欲しいと願っています。